

聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2021 年
1 月 7 日発行
3 学期始業式号第 225 号

さあ今年も始めよう！自身の歩みを！



明けましておめでとうございます。降る雪の中、新年を迎えました。万葉集にも、「新しき年の初めの初春のけふ降る雪のいや重け吉事」と寿ぎます。

平素は、聖母の小さな学校の教育にご協力いただき深く感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日から 3 学期が始まります。本校の生徒たちには、2 学期までに積み上げた「自身の不登校とむき合う力（自分を見つめる力）」、また「日常生活において活発に行動する力（規則正しい生活力、こつこつと宿題をする力、手伝いをする力）」「社会に出ていく力（聖母の学習プログラムに参加する力、原籍校へ向かう力）」を基に、日々の学習を続けて欲しいと思います。また、進路を考えなければならない中学 3 年生は、自分の力に応じた進路を原籍校と共に得てもらいたいと思います。自分は現在、不登校という状態にあつて（その状態にあることは悪いことではなく、まして家族や本人に問題があるわけではありません）、社会（学校）に出るために何に困っているのか、何につまずいているのか、それを解消するために、どういう力を付けたいのか等を考えて、原籍校と共に決めてもらいたいと思います。

本年も、このコロナ禍の第 3 波の中で学校生活が始まります。国立成育医療研究センターが、子どもはコロナ禍で何を感じたかを調べるために「コロナ×子ども本部」を設け、アンケートを取りました。子どもがどのようなストレスを抱えているかを調べたものですが、子ども全体で 3 人に 1 人が「（いつも、たいてい、時々）学校に行きたくない」と回答したそうです。そして、「親のスマホ時間を減らして欲しい」「一度黙って、子どもの話を聞いて欲しい」など、大人への不満が噴出しているそうです。センターはこれらの結果から、大人自身もコロナ禍で自分のことでいっぱい、子どものことに目が向かないようだともまとめています。

私たち大人は、こういう時だからこそ、静かに心の目を凝らし、じっくりと子どもの心に目を向けてみる必要があるのではないでしょうか。「不登校を改善するために、今、この子に何をさせるのか」という視点ではなく、「今、この子は成長のサインとして、何を発しているのか」という視点を持ちたいと思います。子どもたちは、大人からしっかりと見てもらっていると、未来の成果を求められるのではなく、今の私のすべてを見てもらっている安心を持ち、声にならなかった声を発することができるようです。その声こそが、社会的自立につながる声なのです。

今年も「じっと見つめるまなざし」を持って教育にあたりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



<今月の主な行事>

7 日（木）3 学期始業式	19 日（火）華道教室
13 日（水）体育（渡邊先生）	20 日（水）・27 日（水）数学（稗田先生）
14 日（木）特別授業「数学」（江宮先生）	21 日（木）陶芸教室
15 日（金）初詣	26 日（火）珠算教室